

金沢まちづくり市民研究機構

《第9期研究テーマ》を募集します

金沢世界都市構想の実現に向けて、市民が自主的に参画し、市民主体で金沢の個性豊かで創造的な都市政策を研究するため設置された「金沢まちづくり市民研究機構」の第9期研究テーマを広く市民の皆様から募集します。

第9期では、子育てしやすい環境づくりや市民協働のまちづくりの推進、スポーツの振興、歴史都市やユネスコ・クラフト創造都市として金沢のまちの魅力と活力をいかに高めていくべきかという点などに重きを置いて研究テーマを募集します。地域経済やものづくり、福祉・環境・教育など、市民研究機構の研究として取り上げたらよいと思われるテーマを、是非、ご提案下さい。

ご応募頂いたテーマに基づいて、市民研究機構で選考し、第9期研究テーマとさせていただきます。なお、応募できるテーマの数はお一人1件に限らせて頂き、また、応募頂いたテーマが研究テーマとして選ばれた場合は、原則として市民研究員に応募いただきます。

第9期の研究期間は、平成23年9月から平成24年8月までの1年間です。

【応募概要】

* 応募期間

平成23年4月1日(金)～4月15日(金)

* 応募資格

金沢市内にお住まいの方、勤務されている方、通学されている方
(ただし、金沢市近隣の大学等の学生は、金沢市内の在住要件を問いません)
年齢18歳以上の方

* 応募方法

次の事項を書いて、郵送、FAX又はe-mailで下記までご応募ください(様式自由)。

提案する研究テーマ

提案する研究テーマの説明(400字以内)

提案者の住所、氏名、電話番号、e-mailアドレス

* 応募頂いた内容は、第9期研究テーマの選考以外には使用しません。

* 金沢まちづくり市民研究機構の内容は次のホームページを参照下さい。

<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/11001/shiminkikou/index.html>

【応募先・お問い合わせ先】

金沢まちづくり市民研究機構

事務局 金沢市企画調整課 〒920-8577 金沢市広坂1-1-1

Tel (076)220-2031 Fax (076)264-2535

e-mail: shiminkikou@city.kanazawa.lg.jp

第9期市民研究員の募集は、6月下旬からを予定しており、金沢市広報や金沢市ホームページなどでお知らせします。

【参考】第8期の研究テーマと内容を、裏面に掲載しています。

【参考】第8期の研究テーマと内容

研究テーマ 1	子育てにやさしい都市・まちづくり環境の整備推進
<p>金沢市を子育てにやさしく子育てのしやすい都市にしていくために、地域社会全体で子育てを支援する環境の整備やシステムの構築が必要である。本テーマでは、都市計画、住宅、交通、公園、まちづくりなどの観点から、子育てにやさしい環境や施設整備のあり方及び具体的な施策について調査研究する。内容は、市内における子育て環境の実態調査、先進国や先進都市との比較、市内におけるこれまでの施策や施設の整備と運営の実態、利用者の需要や意識などについて調査分析し、市民、企業、行政、および、NPOなどの各種団体の役割について提言する。</p>	
研究テーマ 2	来日する外国人のための金沢文化体験と相互交流プランの開発
<p>「世界都市 金沢」の構想を理解し、それを推進して行くためには、観光や学習などの目的で海外から来る人々が金沢市民とともに、互いの文化や習慣を尊重し合い、満足の行く時間と空間とを共有する事が出発点となろう。海外から金沢を訪れ、一定の期間をこの地域で過ごす/暮らす諸外国の人々に対して、金沢の文化力を理解・体験できるプログラムの開発と、帰国後も含めた継続的な相互交流のシステムについて、多文化共生の視点から検討する。</p>	
研究テーマ 3	次の世代につながる金沢の伝統的な職業をはぐくむ場 = 「ものづくりするまち」について考える
<p>かつての金沢の民衆力というものをみると、まちなかに職住一体化した伝統的職人らが、まちと有機的に結び、日常のコモンセンスを一定レベルに保つ役割を果たしてきたと言えます。しかし、今日的にみればまちなかの空洞化によりその結びつきは弱まっています。そこで本研究の目的は、まちに機能する職人力と民衆力を連携させた『ものづくり工房』が連なる「ものづくりするまち」について探究することにあります。</p>	
研究テーマ 4	欧州に学ぶ歩いて巡れる歴史都市金沢の生活と観光
<p>欧州には何世紀にもわたり繁栄を続けてきた文化都市が数多く存在している。これら文化都市の多くに歴史的建造物や伝統文化及び生活が脈々と継承され続けてきたのは、そこに住む市民がその重要性を認識し、行政が継承や保存を支援してきたからに他ならない。そこで本グループでは、欧州の文化都市の何が人を惹きつけ、それを市民がどのように利活用し、行政が文化政策として何をしてきたのかを調査・研究し、「歴史体感」および観光という観点から、「歩いて巡れる文化歴史都市」としての金沢を如何にプロデュースしていけるかを提案する。</p>	
研究テーマ 5	福祉でつくる安心できるまちのあり方
<p>地域や家庭から孤立してしまうひとり暮らし高齢者や認知症高齢者、障がい者、子どもが増加している。これらの問題に対応するには、公的（フォーマル）サービスの供給だけでは限界があり、私的（インフォーマル）サービスの充実が求められる。近隣住民やボランティアによる要介護者見守りネットワーク活動やNPO・企業による社会貢献活動の活性化、地域で遊び学び育つ子どもの支援、高齢者への情報周知及び緊急時情報キャッチシステムの構築など、すべての住民が安心して暮らせるための方策について、地域で福祉をつくる視点から考える。</p>	
研究テーマ 6	市内中心部空家の活用によるまちなかの創造ネットワークの形成
<p>ユネスコの認定を受けた金沢が、今後創造的に発展して行くためには創造産業に関わるソフト・ハード両面の充実が必要である。そこで、金沢市中心部の空家(町家を含む)、空店舗における国内外の若いアーティスト・工芸作家が集い、競い合い、発表出来るアトリエ等の滞在制作施設(アーティスト・イン・レジデンス)としての活用策について検討を行い、アートによるまちなかの創造ネットワークの形成を研究し、その都市再生の効果を検証する。</p>	
研究テーマ 7	歩行者・公共交通を中心とした交通まちづくりのためのモビリティ・マネジメント研究
<p>誰もが快適で、安心して暮らせるまちづくりが求められており、平成19年3月に歩行者と公共交通を優先した「新金沢交通戦略」が策定された。しかし、公共交通の利用者数の減少傾向に歯止めがかからず、このまま公共交通利用者の減少が続けば、ますます交通の不便なまちになってしまう。この状況を打開するためには、交通事業者の取り組みだけでは不十分であり、利用者である地域住民（市民）自らが公共交通に関心をもつと同時に利用促進に努力することが必要である。第8期では、モビリティ・マネジメント手法を発展させて公共交通の利用促進をめざしたい。</p>	
研究テーマ 8	エコ・福祉・利便性促進に対応した交通機関の検討～金沢における自転車交通発展の可能性
<p>自転車は「エコ・福祉・利便性」の点からも、近距離の移動に適しています。近年自転車がブームになっていますが、自転車利用が増えることは、それだけ事故につながる可能性も多く、車の事故が減少しているのに対して、自転車による交通事故は増加しています。安全で快適な自転車交通のために、必要なインフラ整備や交通安全教育、公共交通との連携など、金沢の町なか交通について総合的な研究を行います。</p>	